

看護大通信

58



新潟県立看護大学

教授 中島通子

新潟県立看護大学では、助産師を目指す学生の教育を行っています。新潟県の出生数は平成20年で18622人、そのうち大学所在地である上越市においては1719人となっております。出生数は減少の一途をたどっています。また、お産事情は、産婦人科医師の減少、産婦人科医院の相次ぐお産の取り扱いの中止など、お産を考慮しておられる皆さまには心配事が多いことと思います。お産といえは、産婦さまを支え、お産の手伝い

助産師目指して学習しています

をさせていただく職業として助産師があります。本学では、大学4年間の間に助産師の教育を実施しています。産婦さまの相談役としてお産のケア、お子さまへのケアなど助産師に期待されることは大きいと考えます。入学

す。助産師の資格を得るためには、3年間の看護の学習を基盤

に、さらに助産に関する知識・技術を深め、広げていく必要があります。これもお母さまやお子さまそして家族の皆さまの幸せを担う者として当然やらなければならぬ学習です。とても辛く、心も身体も疲弊することも

ります。これは11月ごろまで続きます。母と子の命を預かる者としての責任の自覚と職務の重さを自らのものにする実習です。そして来年には助産師国家試験に挑むこととなります。学生が一人の専門職者として成長してゆく姿をまぶしく眺めそして教員として自分の経験・知識を駆使して学生に伝えて行きたいと教員一同考えております。実習の際には皆さまに出会うことがあるかと思っております。どうぞ温かい目で見守っていただけることを切に願っております。

時から助産師を目指し、母と子そして家族の皆さまのお役に立ちたい、母と子が初めて出会う感動的な場面に一緒に立ち会い、喜びを分かち合いたいと願う3年間勉強します。そして4年目にやとその時期がやってきま

あります。しかし学生が目指している道に私たちが教員も一緒になって応援したいと考えています。現在、妊婦さまの診察技術や保健指導の実習を行っております。そして夏を迎えるころには出産への支援を学ぶ実習が始ま

